

平成31年1月開催 福部地域振興会議議事概要

日 時 平成31年1月10日（木）13:30～15:00
会 場 福部町コミュニティセンター2階研修室
出席委員 南部敏、坪内悟、山本輝彦、小谷孝文、岸本正枝、上山弘子、濱田香、西尾祥幸、
平田正雄、北村重政、早島岳大（順不同敬称略）
事務局 支所長、副支所長兼地域振興課長、産業建設課長、市民福祉課長、地域振興課課長補佐

○ 議 題

- (1) 報告 支所庁舎耐震化工事に伴う執務室の移転について
 - (2) 報告 地域振興会議委員の公募について
 - (3) 報告 福部町のまちづくり構想基本計画（素案）の意見募集について
 - (4) 協議 福部町のまちづくり構想実施計画（たたき台）について
- } 支所だよりで報告

事務局：基本構想10年、基本計画5年、実施計画3年の期間で策定を進めさせていただいていますが、本日は実施計画のたたき台について審議をお願いします。なお、このたたき台は、まだ各種団体・担当課等の了解を得られたものではありません。本日の審議を経た後、各種団体・担当課と協議に入る予定です。

①山陰近畿自動車道の新インターチェンジの設置について

委員A：岩美広域農道を活用したイベントの可能性調査では、福部のどの地域資源を活用予定か。
事務局：蔵見の鳥岩や中の名水などを想定しています。
委員B：交通安全協会が駒馳山での街頭啓発で新インター設置の要望活動を併せて行うことは可能。
委員C：交通渋滞解消について、繁忙期には砂丘の道路を一方通行化することも検討してほしい。

②新インターチェンジ付近への道の駅等の設置について

会 長：Gバスツアーは観光コンベンション協会の事業か。
事務局：協会職員が昨夏に意見交換に来られ、福部地域の観光商品化を検討されています。
委員D：鳥取県がこの度、外国人が訪れるべき日本の観光地ランキングで第1位に選ばれた。福部地域では、外国人に向けてどのような地域資源が活用可能か。
事務局：坂谷神社の古代文字など、外国人の関心が高いと考えます。今後、観光戦略課や観光コンベンション協会と連携して、これらの地域資源を売り込んでいきたいと考えます。
委員E：アンケート調査の実施が再来年度になっているが、来年度に前倒しできないか。
事務局：予算が必要なものは、予算化が必要ですから、再来年度からの対応となります。
委員F：ふれあい会館で観光客対象の防災訓練を計画しているが、観光客数などを把握しているか。
事務局：観光客に限った入込客数の把握や、防災訓練の詳細はこれからの作業になります。

③新たな道の駅等と福部町中心部の中心機能の連携

委員C：らっきょうの自動販売機を設置できないか。
事務局：話題性もあり、関係団体と連携して進めたいと考えます。
委員G：まちづくり協議会が行う歩道整備の推進とは、どういうレベルを想定しているか。
事務局：アダプト活動や歩道整備のニーズを、地域から要望していただきたいと考えます。

④福部中心部の中心機能の拡充

委員G：旧福部中学校空教室の利活用はPTA活動の範囲での活用か、もっと幅広い活用か。

事務局：教育財産（行政財産）のままでの活用を検討していただきたいと考えます。

⑤町内移動手段の改善

委員G：らっちゃんバスの砂丘までの運行と、観光客の輸送については同時進行できないか。

委員B：利用度向上のため、ルート変更を含むらっちゃんバスのあり方を再検討していただきたい。

事務局：事業者および担当課と検討します。

⑥居住推進の取り組み

委員A：移動販売車の総合支所立ち寄りには何か意図があるか。

事務局：まずは移動販売車の立ち寄りなど、できることからスタートし、商店の誘致などにつなげていきたいと考えます。

委員H：新たなお試し住宅の整備に清内谷集落が挙げられているのは何か特色があるのか。

事務局：清内谷集落は、これまで楽居大学などグリーンツーリズムの推進が行われてきました。しかし、集落役員の高齢化などで年々事業実施が困難となり、今は休止状態となっています。砂丘集落でのお試し住宅の成功例を清内谷集落でも展開し、交流人口を増やすことで、町奥部の耕作放棄地の解消や塩見川流域の保水機能の回復につなげていけたらと考えます。

委員G：町内に医療機関を誘致することについては、新インター設置の課題に逆行しないか。

委員D：新インターができて便利になっても、それとは別に町内の医療体制の充実を図るべき。

事務局：表現も含めて再検討します。

⑦塩見川の治水対策の強化

委員G：耕作放棄地の解消は、棚田保全以外にもっと幅広い取り組みを検討していただきたい。

委員C：水稲自体が儲からず衰退している。棚田は地域活性の視点で取り組まないと継続できない。

会長：人口増加には、耕作放棄地を転用して宅地化することも必要。

委員D：農地の転用や活用については地域の理解が必要。この計画で取り組んでいただきたい。

委員C：住みます芸人みたいな人を住まわせて、情報発信していただきたい。

委員I：グランピングによる避難訓練を行う意図は何か。

事務局：若者に人気のグランピングを避難訓練に取り入れることで、若者の自主防災活動への参画を促し、自治会活動への理解と加入につなげていきたいと考えます。その他のご意見については、表現等も含めて再検討します。

⑧防災・防犯対策の充実

事務局：この項目は構想にない項目ですが、ワークショップ等の意見を踏まえて追加したものです。

会長：防災無線屋外スピーカーの設置場所は決まっているか。町全域をカバーできているか。

事務局：現在、担当課で町全域をカバーできる設置場所を選定中です。

委員C：屋外スピーカーと屋内情報伝達設備の情報の違いは何か。

事務局：屋外スピーカーは緊急情報を、屋内情報伝達設備は地域内情報を放送するよう整備します。

(5) 第1回東部地域合同地域振興会議について

事務局：2月7日（木）、福部町コミュニティセンターで、国府地域振興会議と合同で会議を開催します。合同会議終了後、会場を分けてそれぞれ単独の地域振興会議を開催します。

以上